

甲州市市制施行2周年記念式典〔平成19年11月1日〕

式 辞

本日ここに甲州市制施行二周年記念式典を挙行いたしましたところ、山梨県知事をはじめ、来賓各位には、公私何かとご多忙にもかかわらず、ご臨席を賜り、また、市内各界各層を代表される市民の皆様方のご列席をいただき、盛大に記念式典を執り行うことができますことに対し心から厚くお礼を申し上げる次第であります。

甲州市は、平成17年11月1日の市制施行から早2年を迎えました。

この間、本日ご臨席賜りました皆様をはじめ、多くの市民の皆様にご多大なご支援とご協力を賜わり心から感謝申し上げます。

合併後二年、着実に新市の基盤づくりが推進され各種施策に取り組んで参りました。

「すべての事柄は、最初が肝心でありスタートが円滑であれば、その後の運びも滑らかである」とのたとえのごとく、市民各位が、それぞれの立場で地域の特性を活かし相互に融和を図り、新市のあるべき姿に向かって努力を重ねる。その結果として、後世に誇り得るまちづくりができる。そんな思いを込めて、この二年間、市政の執行に邁進してきたところであります。

今、市は、地方分権の推進の中にあり市民に最も近い自治体として、自らのまちづくりに責任を持ち、自主、自立の行政運営が求められております。そのため合併後、新市甲州市のまちづくりに取り組むために新たな時代を見据えた行政運営を確立すべく、平成17年12月、私を本部長とする行政改革推進本部を設置し、第一次行政改革への取り組みに着手して参りました。

昨年度策定した「第一次甲州市行政改革大綱 実施計画」の初年度となった平成18年度における取り組み状況と成果につきましては、先般、広報やホームページで公表させていただいたところではありますが、行政改革による目標効果額2億5,620万円に対し、実績効果額は3億3,280万円と、目標を上回る実績を達成したところであります。

引き続き、市民の皆様方のご理解とご協力をいただく中で行政改革への取り組みを進めてまいりたいと考えております。

次に、本庁舎の移転につきましては、現庁舎の老朽化、狭隘化が進み、市民サービスを提供するうえで、さまざまな問題があり、特に耐震性には大きな問題があることから、旧塩山ショッピングセンター「シルク」に移転する計画を進めて参りました。

本年八月、市土地開発公社とシルク側との売買契約を取り交わしたところであります。

今後は、平成20年度に市において買戻しを行うとともに実施設計を行い、平成21年度以降に改修工事を実施して参りたいと考えております。

ごみ処理問題につきましては、その処分先に大変苦慮してきたところでありますが甲府市のご好意により昨年12月から受け入れていただいております。

現在、山梨県ごみ処理広域化計画のCブロック構想により、甲府市、笛吹市、山梨市、甲州市の四市により、ごみ処理施設に関する事務を共同処理する一部事務組合を設置し、平成26年の完成を目標に新たなごみ処理施設の建設のための準備を行っているところであります。

次に、少子化への取り組みにつきましては、次代を担う子供の健全育成とともに安心して生み育てる手助けとして、第三子の出産祝い金、不妊治療「コウノトリ事業」の充実を図るなどの取り組みをいたしております。

また、塩山市民病院の産科問題につきましては、多くの皆様から産科存続の署名をいただいております。

全国的にも医師不足が深刻な問題となっており大変厳しい状況ではありますが、今後も引き続き人脈を頼るなど、なお一層の努力をして参りたいと考えております。

今、地方自治体を取り巻く社会経済情勢は日々変化し、本市におきましても合併前の予測に加えて数々の新たな課題が現出しており、市政に対する市民の皆様の声を的確に反映し、特色と先見性の上に調和のとれた施策の推進が求められております。

このようなことを踏まえ、甲州市の最上位計画として平成20年度から10年間にわたるまちづくりの基本理念や方針を定めた「第一次甲州市総合計画」(甲州市まちづくりプラン)の策定に向け、各界各層を代表する市民の委員の皆様にご審議をお願いして参りました。近く答申を頂き12月定例市議会へ提案を予定しております。

計画は、合併時に策定した「甲州市まちづくり計画」を基軸に「豊かな自然、歴史と文化に彩られた果樹園交流のまち 甲州市」を将来像とし、市民アンケート調査結果など、三万七千余の市民が抱く「わがまち甲州市」の未来への想いと施策の方向性を示す内容となっております。

具体的な施策の推進に当たりましては、個別計画を作成し取り組むことといたしております。

まず、環境問題への取り組みでは、温室効果ガスの抑制に向けた取り組みといたしまして市役所が率先して取り組むために甲州市役所地球温暖化対策実効計画(エコオフィスプラン)を策定し、実施に向け具体的な取り組みを進めているところであります。

また、地球温暖化対策地域推進計画につきましても策定に向け検討を行っているところであります。

次に、食生活の問題は、肥満や生活習慣病を引き起こします。また、食の安全の問題、食に関する情報の氾濫など食生活をめぐる問題が深刻化しております。

市では、市民と協働で手づくりの「食育推進計画」を策定し、市民が食を通じて豊かで健やかな生活を生涯に渡って送ることが出来るよう、あらゆる機関が相互に連携しながら食育を推進しているところであります。

高齢化の進行は年毎に進んでおり、甲州市における65歳以上の高齢化率は、26.7%となっております。高齢者がいつまでも健康で過ごすことが出来るよう健康事業の推進や介護予防事業の充実を図り、たとえ介護が必要となった場合でも安心して支援が受けられるよう、その充実を図って参ります。

懸案でありました広域営農団地農道整備事業、通称「フルーツライン」は、平成19年度末に市内は全線供用開始が見込まれており、これにより国道140号、411号、並びに国道20号が横断的に接続され、中央自動車道勝沼インターチェンジへのアクセスが図られることにより市街地の道路の混雑の緩和、果樹輸送の新ルートとして利便性が図られ、更には観光農園をはじめ本市を訪れる観光客の誘客にも大きな期待が寄せられるところであります。

さて、本市の人、自然、歴史、文化、産業など有形無形の地域資源は、広く全国や世界に誇れるものであります。地域資源と地域の特色を活かした、観光、農林業、商工業など、産業の振興による活力あるまちづくりを主要課題として取り組んでおります。

現在放映中のNHK大河ドラマ「風林火山」は、全国から脚光を浴び人気を集めていることから、甲州市にとって歴史、文化、観光、産業等、甲州市の知名度を上げる絶好の機会であり、本年度を「甲州市観光元年」と位置付け「風林火山・武田の聖地 甲州市」をテーマに観光宣伝・観光PRの全国展開を図り、観光客の受け入れ、情報発信、イベント開催、近代産業遺産などの観光施設整備に取り組んでいるところであります。

なお、旧宮崎光太郎氏住宅や宮崎醸造所、いわゆる宮光園関連施設や遊歩道としてよみがえった旧JR大日影トンネル、ワインカーブとして利用している旧JR深沢トンネル、国登録文化財の土屋龍憲セラー、旧田中銀行社屋、旧祝橋など、これら一連の産業遺産群は、経済産業省が日本の近代化をけん引した産業遺産として、全国三百箇所の中の一つとして、認定されることが報道されました。今月末、経済産業大臣から認定証を授与されることとなっております。

これら産業遺産群は、今後、雑誌などを通じて広く紹介されることから甲州市の知名度は益々向上していくものと期待するとともに、ワイン振興にも波及できるよう、市としても努力して参りたいと考えているところであります。

新しい市の姿を、どのように描いていくのか、そのための都市計画マスタープランや、農業を総合的に推進していくための農用地利用計画と農業振興のマスタープランを定めるため、農業振興地域整備計画を現在策定中ではありますが、都市機能と農業振興との調和を図りながら、土地の有効活用による企業誘致や商業集積への誘導など、新たなまちづくりに向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。

これらの施策の推進・展開に際しましては、従来の手法や慣例に捉われることなく新たな視点で、これまで以上に市民参画と、市民と行政との協働によるまちづくりを推進して参ります。

今後も、市民の皆様が住んでよかったと感じられる、誇り高い甲州市とするため、あらゆる努力を日々傾注して参ります。甲州市は、先人のたゆまぬ努力により、今日まで大きな発展を遂げて参りました。この偉大な先人が築き上げてきた貴重な財産や資源、そして教えを引き継いでおりますが、これを守り育てていくのが私たちに課せられた使命であると認識しております。

本日、これまでの市の発展に多大なご尽力を賜りました方々に対し、表彰状並びに感謝状の贈呈をさせていただきますが改めて心から敬意と感謝を申し上げます。

本市が、今後さらに発展できますよう晴れて受賞されます皆様をはじめ、国や県、さらに関係機関のご指導はもとより、市議会、各種団体、並びに市民の皆様方のなお一層のご支援、ご協力を賜りますことを切にお願い申し上げます。

結びに、ご列席の皆様をはじめ市民の皆様方のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げ、式辞といたします。